令和元年　網走市議会

文　教　民　生　委　員　会　会　議　録

令和元年 11 月 11 日（月曜日）

○日時　令和元年11月11日　　午前10時00分開会

○場所　委員会室

○議件

１．行政視察の取りまとめについて

○出席委員（６名）

委　員　長	永　本　浩　子
副　委　員　長	近　藤　憲　治
委　　員	金　兵　智　則
	平　賀　貴　幸
	古　田　純　也
	村　椿　敏　章

○欠席委員（１名）

委　　員	工　藤　英　治

○委員外議員（１名）

議　　長	井　戸　達　也

○事務局職員

事　務　局　長	大　島　昌　之
次　　長	細　川　英　司
総務議事係主査	寺　尾　昌　樹

午前10時00分開会

○永本浩子委員長　それでは、ただいまから文教民生委員会を開会いたします。

最初に、工藤英治委員より欠席の届け出がありましたので御報告いたします。

本日の委員会は、先月行われました行政視察の取りまとめを行います。

行政視察の取りまとめ方法については、９月６日開催の当委員会において、各委員がレポートを作成し、それを取りまとめることで決定をいただいております。

各委員提出のレポートはお手元に配付のとおりですが、レポート様式の体裁などは事務局で整えさせていただいておりますので、あらかじめ御了承ください。

それでは早速、各委員より口頭で今回の視察の御報告をしていただきたいと思います。

よろしいでしょうか。

それでは、平賀貴幸委員からお願いいたします。

○平賀貴幸委員　今回の視察について、所見を簡単に述べたいと思いますが、詳細についてはレポートで提出していますので、そちらのほうをごらんいただきたいと思います。

まず、通所付添サポート事業についてですけれども、この手の事業はいろいろな所でやってはいるんですけれども、今回道交法のいわゆるその一般的な解釈の外にあるやり方だと私は思ってはいますが、そういったやり方でやったところがやはり特筆するべきところだったと思います。

それを乗り越えるための一つの知恵や示唆はいただきました。

北海道ではこういう形が今のところ実施できておりませんので、網走も含めて北海道でもこういった形での実施ができないのか、さまざまなチャンネルで取り組みをしていく必要があるなと改めて思ったところです。

また遊休車両の活用についても、やはりその県が主体的に動いていかないと、なかなかその一市町村だけですと社会福祉法人さんの監督監査権は都道府県にありますので、なかなか難しいんだろうなと改めて思いましたが、逆に言うと、そういったところをしっかり動くようにすればできないことではないんだなってことを改めて感じたということです。

それから、未病に対する取り組みですけれども、健康に関するまちづくりを進めているところは、網走を含めてさまざまあるんですが、そこはしっかりと経済、あるいは雇用と結びつく形というのを体系的にやられている所っていうのは初めて見たという感覚があります。

もちろん、健康というのが大事で病気に至らないということが一番大事だと思います。根本にあるんですけれども、一体的にそういったことに取り組まれているところが、やはり先見性があって大いに網走市としても参考にすべきだなというふうに思ったところです。

また、最終日のつくば市ですけれども、ロボット工学による難病支援ということで、詳細は申し上げないことになっておりますけれども、さまざまな新

たな示唆を得ることができたというのは確かですので、いろいろな形で生かしていきたいと思います。

それから全体を通じてなんですが、岡山県、それから岡山県備前市、それから神奈川県の大井町、自治体とそれから事業主体とそれぞれ視察をしたという形で１日２カ所ずつ視察をしたのですけれども、正副委員長に日程はお任せしていたのでこういう形になったとは思ってはいるんですが、内容的には２カ所にせずに、最初の１カ所でより深く取り組むようなやり方のほうがよかったのかなというふうには感じました。そこは、今後の参考にしていただければいいのかなというふうに思いました。

いずれにしろ、新たな知見を得たということでは大きな視察だったと思いますので、網走市のまちづくり等にぜひ生かして、動きを我々もせねばならんというふうに思うところです。

以上です。

○永本浩子委員長　ありがとうございます。

それでは金兵智則委員。

○金兵智則委員　私のほうからも、視察の報告をさせていただきたいと思います。

中身、事業の内容、詳細については、報告書にまとめさせていただいていますので、そちらを見ていただければというふうに思いますけれども、今、平賀貴幸委員のほうからもありましたけれども、付き添いサポートにつきましては、さまざまな取り組みをされている中で、やはり県の取り組みが熱量もあってすばらしいなというふうに思いました。

熱量が市町村に伝わって、よりもっと伝わっていけば、岡山県はものすごくこの通所付添サポート事業については進んでいくのかなというふうに思いました。

網走でも同様の取り組みができればいいなと思いましたけれども、網走単独ではさすがにちょっと難しいのかなと思うところもありました。

北海道で取り組んでくれること、北海道にお願いをしていくことというのも必要なことなのかなというふうに思いました。

それと、神奈川県と神奈川県の大井町の未病バレービオトピアの件ですけれども、こちらも県のほうで未病改善宣言という旗印が立てられた中での取り組みだというところに民間の参入もあり、県全体での取り組みの中で、さまざまな取り組みをされていると。協力もしながら、民間も参入しながらということで、大変おもしろい取り組みだなというふうに思いました。

これは網走にというのは、すぐにはなかなか難しいですけれども、この未病という考え方があるというのが改めての認識と、健康をうたっている網走のまちですので、その中でも健康分野の事業の今後に向けては役立つのかなというふうに思いました。

最後のつくば市については、詳細について控えさせていただきますけれども、直接教授からお話を伺えたというのが大きな財産なのかなというふうに思います。

いただいた財産を、これからさまざまな面で生かしていければいいのかなというふうに思います。

それとあと視察全体に関してですけれども、今回は委員長、副委員長に行程をお願いしまして、大変御苦労されたというふうに思います。大変ありがたかったなというふうに思いますし、改めてお礼を言いたいなというふうに思いますけれども、今回５カ所の視察ということで、大変有意義な視察ができたというふうには思いますけれども、できることならば出張で現地まで行ってお話を聞きますので、できれば現地の街なんかを見る時間もあったらよりよかったのかななんていうふうに思いますけれども、決して否定するものではなくて大変ありがたかったなというふうに思います。

以上です。

○永本浩子委員長　それでは次、古田純也委員。

○古田純也委員　私からの行政報告なんですけれども、報告書で提出している内容のとおりなんですが、私が今回感じた部分をお伝えすると、まず岡山県の通所付添サポートに関してですが、やはり平賀貴幸委員からも先ほどお話がありました道路運送法という難しい壁を乗り越えていったというのは、やっぱり県が主導で動いていただいて、市も動きやすくなったのかなっていう部分では、網走でも取り組む部分では、道でしっかり動いていただければという部分を感じました。

付き添いが本当に必要だなっていう時代は、これからどんどんどんどんやってきますので、またその付き添いに生きがいを感じて付き添う人、勇退された方の協力も必要になるのかなという事業としては、ぜひ網走市としても早くこの事業に取り組んでいければなという感想を得ました。

それから、神奈川県大井町でやりました未病ですね。未病という言葉は、僕は今回ちょっと初めて知ったのですけれども、病気になる一歩手前の状態を

いかに改善していくかっていう部分だったのですが、大手有力企業の協力なしでは、あれだけの巨大な施設、また誘致ができないっていうのを改めて実感させていただきました。

網走も空港から近いという立地条件を考えるとですね、今後そういう取り組みも何らかの計画をしながら進めることができたらいいなというふうに感じました。

あと、筑波大学のほうのロボット研究なんですけれども、詳細については皆さんと同様に報告できないという部分なんですが、直接多忙な先生が１時間半にわたり講演をいただきまして、本当にこれからの未来の世界を間近に感じました。

以上です。

○永本浩子委員長　ありがとうございます。

それでは近藤憲治副委員長。

○近藤憲治副委員長　まず大変行程的にハードな内容をですね、しつらえていただきました議会事務局の寺尾さんに感謝をしたいというふうに思います。ありがとうございました。

そしてまた各視察先ですけれども、岡山県、また岡山県備前市の通所付添サポート事業につきましては、当市でも高齢者ふれあいの家という集いの場の設置というのは積極的に行っていますけれども、やはりそこに行けなくなる人たちをどういうふうに支えていくかというところには、まだ手は回っていませんので、非常に参考になる事例を見せていただいたというふうに感じております。

神奈川県大井町の未病バレービオトピアですけれども、こちらはいわゆるその健康づくり、また健康増進というものをいかにその地域のさまざまな施策と連動させていくのかというところで、未病という概念は非常に有益であるということを教えていただいたというふうに考えております。

最後に、茨城県つくば市サイバニクス研究センターにつきましては、内容を割愛させていただきますけれども、やはりテクノロジーがですね、人類の幸福を実現していく極めて有益なツールであるということを再確認させていただきましたので、やはりこういう人口減少に直面している地方都市こそですね、テクノロジーをさまざまな分野で活用して、市民の幸せにつながるような施策を打ち出していく必要性があるなと改めて実感させていただきました。

以上です。

○永本浩子委員長　ありがとうございます。

最後に私のほうからということで、本当に今回ちょっとハードな視察内容で、大変皆さんには御苦労をおかけしたかと思いますけれども、私としては本当に県の動きと現場の動きの連動性というところとか、いろいろな角度で見させていただいて本当に今回の視察は勉強になったなと思っております。

最初に、岡山県の通所付き添いサポート事業なんですけれども、本当に先ほども皆さんも言われていましたけれども、本当にこの運送法のそこに白タク事業とされてしまうと、それが違法になってしまう。そこをどうやっぱり一つ乗り越えて、こういった福祉の介護予防のほうにつなげていけるかというところを、県が難しいところはまずやって、県が市町村のやりやすいように全力サポートをする。まずそこの県の姿勢というところに、私はすばらしいなと。そしてまた、予算措置もすぐにできるように10分の10で県が全面的に最初のスタートは応援するという、こういった姿勢とかもぜひ北海道でもやっていただきたいというふうに思いました。

また今回、女性の参事の方、それから備前市でも女性の方が中心となって、視察が終わったあとちょっとお話をしたときに、それこそその県の参事と市の方が女性同士で同じ作業療法士ということもあったようですけれども、物すごく連携をとりながらやっていました。その女性の力、パワーのそういった部分でもすばらしいなと思いました。

そしてもう一つ、サポーターを募集するときに、平等にという考えは全く必要ないというか、ともかく一本釣り。この人とこの人とこの人に頼めれば、そういう人を10人揃えたら必ず成功するという、やっぱりその地域の顔をよくわかった上で進めていっているというところが、広報とかに一律にチラシとか公募を載せるというんじゃなくて、顔を見て人を見て一本釣りでやっていったところが、やっぱり成功した秘訣なんじゃないかなっていうこと。

それから、こういったことを通して男性、最初はやっぱりそのボランティアを主体でやっている女性が主でスタートしていたようですけれども、そこから自分の御主人や男性の方たちがやっているそば打ちの会とかに声かけをしながら、男性の地域デビューのきっかけになっているということもすばらしい一つの成果だと思います。そしてまた、そこに携わった方たちが、最初は通所のところに自力でそこに行けなくなった人たちを引きこもりにさせない。介護予防のための通所付き添いということがメインな

んだけれども、それに携わる中でボランティア活動にも自然に手伝っていけるようになっているというところが、網走にもふれあいの家という素晴らしいボランティアさんたちの活動があるんですけれども、結局そこのボランティアさんたちがだんだんと高齢化になって、次の世代にどううまくバトンタッチするのかというのが、網走にとっての大きな課題だと私は思っているんですけれども、それがこういった形でうまくバトンタッチができていければ、本当に網走にも活用をそういった形でできていければいいのではないのかなということを思いました。

次に未病の観点ですけれども、本当に大井町にとっては、このブルックスホールディングスさんが、もともとあそこの土地建物を買っていて所有していったということがあった上で、この民間の資本力と自治体が連携をして、そこで県の採用になったということで県の財政力も投入しながらすばらしい形でこの未病テーマパークが展開されている。

実際に行ってみてやってみるとやっぱり楽しいし、また行きたいっていう気持ちもよくわかる。そして若い人、お年寄りといったいろいろな方にマッチングしたいろいろな催し物もあったりする施設もある。また、昼食を食べたレストランも、本当に周りを見ると若い女性がもうずらっと座って食事をしているということで、そういった意味でもいろいろな世代の方たちに使ってもらえる形で展開されていて、本当に神奈川県としてのこの取り組みの一環ですけれども、すばらしい展開をしているなと。ただ、やっぱり民間資本力を使うということ、これから網走市にとっても大事なテーマになってくるかと思いますけれども、やっぱり民間の弱点は採算がとれなければ、撤退されてしまう可能性があるという、そういったところもやっぱり気を付けていかなければいけないところではないかなと思いました。

また、大井町だけでもこの未病に対するテーマパークまではいきませんけれども、そういった無料で自分の体の中がどうなっているのかというのを測れる施設を県の主導で、やっぱり多分財政的にもかなり応援が入っているんじゃないのかなと思いましたけれども、ああいった形で持てるということ自体、私も自分自身がやってみて数値で出されると、やっぱり切実に自分の健康についても考えさせられるということで、健康機器や測定機器はお値段もするようなので、網走市が即これはできるのかというとなるとなかなか難しい点もあるかと思いますけれども、こういった形で市民の健康意識向上を図っていくということは、大事なテーマなのではないかなという思いで帰ってまいりました。

最後に、筑波大学の山海嘉之教授の事業ですけれども、海外から帰ってきたそのままのスーツケースを持ったままで駆けつけていただいて、講演が終わったら即、また次のところに行かれたということで本当にお忙しい中、時間をこじ開けていただいての講演だったということに本当に感謝したいと思います。

そしてさらに、今回自治体の視察ということで行政に関することをかなり多く、わざわざ私たちのために入れてくださったということで、私自身も薬剤師なので薬の許認可とかそういったことが、日本は本当に時間がかかり過ぎて大変だと。今さまざまな課題があるのもよくわかっているつもりでしたけれども、そういったところにまで山海嘉之教授が改革の手を伸ばしていただいて、本当にそれもやっぱり１人でも多くの人を救いたいその思いがあふれていることを大変強く感じました。

筑波大学という研究機関の研究だけで終わってしまう。それではやっぱり本当の意味で、その研究が人を救うことにつながらないということで、みずからやっぱり会社も起ち上げて、そういった事業にも世界を相手に立ち向かって展開されているというすばらしいなという思いでいっぱいでした。

最近では、介護用のロボットスーツも介護の現場だけじゃなく工事現場とかそういったところにもかなりほかの企業も手がけるようになって、普及してきていることの先駆けのところを担っているのが山海嘉之教授であり、そしてまた、この医療用の「ＨＡＬ」がその人の人間が持っている、また残っている可能性をいかに引き出すかというところで、医療用の「ＨＡＬ」を装着しなくても歩けるように。装着しているだけじゃなくて、装着しなくても歩けるようになる、手を動かせるようになる、いろんな機能が回復してくるという本当にすばらしい研究を見せていただいて、これが即網走のためにどう役立つのかと言われると、すぐにというわけにいかないかもしれませんが、こういったことが本当に世界の先端で日本の技術が開化されているということをまじまじと知ることができて、大変勉強になったと思っております。

ということで、本当に今回少し忙しいスケジュールではありましたけれども、内容的には大変良い内

容の視察をさせていただいたと思っておりますので、私たちも少しでも網走のためにこれが役に立てるように頑張っていきたいと思います。

以上でございます。

各委員さんから既に、事務局にこのレポートが提出されておりますので、このレポートとともに調査概要を添付の上、後日議長あてに調査結果報告を提出することといたしますけれども、それでよろしいでしょうか。

〔「よし」と呼ぶ者あり〕

では、そのようにさせていただきたいと思います。

このほか何か各委員からございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければこれで文教民生委員会を終了いたします。

お疲れさまでございました。

ありがとうございました。

午前10時21分閉会